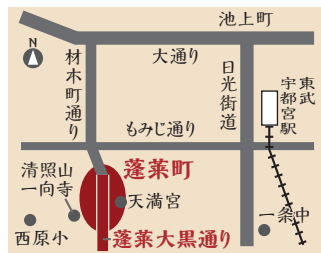




▲昭和32年当時



また、蓬菜町には「蓬菜町屋台」が受け継がれています。

宮）があります。この天満宮は蓬菜町という町ができる以前に宇都宮城築城の際、西方の守護神として祭られたと伝えられています。

現在の蓬菜大黒通りを歩くと、蓬菜町天神（天満宮）があり、この天満宮は蓬菜町という町ができる以前に宇都宮城築城の際、西方の守護神として祭られたと伝えられています。

この地区の世帯数は少ないのですが、それでも、地元若者が交代で祭の夜間の番をするなど地域総ぐるみで取り組み、家族や地域の絆、伝統文化を親から子から孫へと受け継ぎます。蓬菜町では、現在も天満宮の美化に努めるなど社や屋台を大切に保存し、未来へと守り伝えていきます。

この屋台は、1845年江戸時代後期に建造されたとみられ、図案師・狩野永徳の図を写借し、彫刻師・高田慎吾、彩色・菊地愛山らの手により、タンチョウや松が彫刻されている他、鮮やかな青色に染められた波の彫刻が印象的です。現在は、数年おきに、宮まつりの際に組み立てられ、その姿を披露しています。



ほうらいちょう  
**蓬菜町**  
現在の西3丁目、西原1丁目辺り

古いまちの呼び名と  
ごぼれ話を紹介します



蓬菜町の彫刻屋台保存会  
会長 **渡辺 忠夫**さん